

第 2 章

母親ノート法とは

- 両親をとおして
本人が自分の生きていく意味を掴んでいく方法

1

2

子育ての原理

- Tパターンの原理
- 快-不快の原理
- 父性と母性の成り立ちの違いを知ること
- コミュニケーションの直線化
- 子育てにも練習がいる
- 親の守りがないと子は育たない
- 親が大人であること

3

子育ては自己犠牲で当たり前

- 子どもは親の言いつけは必ず守る⇒命にかかわる事を知っているから
動物の親は命にかかわる以外の注意はしない
多くの注意は子どもを注意散漫にさせる
- 親が子どもにねぎらってほしいと思う時は 自分が疲れている時
⇒だから、親は自分の人生をしっかりと納得いくように生きることが大切
- 親が自分の人生に失望している。
⇒子どもも生きている事に意味を感じない

4

Tパターンの原則

-
- Tパターン ⇒ セラビスト的な関り
子ども主導のコミュニケーション
 - Sパターン ⇒ 通常の関り
親主導のコミュニケーション

5

快—不快の法則

-
- ・ 親は子どもに快をもたらす存在
⇒ 親子の結びつきが強くなる
 - ・ 愉快的体験が不愉快的体験より多くあると子どもは成熟する。
⇒ 不登校になる子は愉快を感じにくい子が多い
⇒ ここ、ポイント！ 肯定的な言葉出しの必要性とTパターン
- 人は自分の体制を維持し、強化してくれるような事しか学ばない。相手中心に受け入れないと、その人の成長を助けることはできない。Byロジャーズ

6

母性と父性

-
- ・ 母親は自分の子どもであることを知っている。
 - ・ 父親は教えてもらわないとわからない。
 - ・ 動物の親は子育てに他人を関与させない
 - ・ 人はデータで子どもを見るようになってしまった。
母親不在⇒父親化 本能的ではなくなってしまった。

7

コミュニケーションの直線化

-
- ・ コミュニケーションに必要なものは「正確さ」と「情緒」
 - ・ 「正確さ」のためには コミュニケーションを「直線化」すること
 - ・ 「直線化のコミュニケーション」
「プリント知らない？」⇒「知ってるよ」or「知らないよ」
 - ・ 「斜めのコミュニケーション」
「プリント知らない？」⇒「またなくしたの？」
斜めのコミュニケーションはわかり辛い。

8

概念の違いを知る

- 「お母さんは何もしてくれない」
- 言葉を言葉通りにとってしまうと何もしていないわけではないので、ムカッとする。
- 子どもはそういう事を言いたいわけではない。
- 子どもの言いたい事⇒私のしてほしい事をしてくれない の 概念
- 察して「何をしてほしいの？」と聞いてみる。
- 人によって言葉の持つ意味は違う⇒相手の言いたい事を正確にとる事が大事

9

子どもの欲求は待ったなし

- 子どもの欲求は軽い気持ちで待たせてはいけない。
親子の信頼関係をつぶしてしまう。
- 欲求があった時は、必ず確認する事。
- 子どもはかなり待つての上で欲求を出してきている事も多い

10

親の守りの必要性

- 人間は親に見放されても命がなくなる事は少なくなったが、心にゆがみが生じやすくなる。
- 親の守りの一番の特徴は直線的でなければならないこと。
自分がするんや...という気持ち
人を頼らないという気持ち
- 人間は大事な時に逃げたら一生逃げなければならない。覚悟を決めなくてはならない時がある。
- 親の守りは子どもから見て、確かに帰れる港なのです。

11

親自身が大人であること

- 大人は子どもと喧嘩をしない
- 人間は大人になるのが複雑で難しい生き物である。

3章に続く

12

第3章

13

母親が子ども性を持つこと

- 母親が子ども性をもっていないと、心から子どもの気持ちになってやれない。
- 子どもでいい
- 泣きたい時に泣いて、笑いたい時に笑えばいいのです。

14

女性の生き方の多様化による不安

- 女性の生き方が多様になった。
⇒モデルがない。ビジョンが持てない。
⇒不安定で流されやすくなる。
- 自分が生きられなかった人生を子どもに望む
- 多くの母親は迷いと不安の中で子育てと自分探しをしている
- 特に長男⇒夫の代わり・自分の理想の男性

15

子離れ

- 現代の子離れは子どもの課題
- 親としては子離れしてもらわなくても構わない
⇒自分で親離れする力のない子はそのまま居座る。
- 子どもの面倒をみることによって、夫婦の調和が保たれている
⇒夫婦の問題が子育ての陰に隠れている

16

自分がより良い自分になるとは

- 家族を生かしながら、自分を生かす。
(お互いのニーズを満たすという事。)
- 家族はシステム。一人が変わるとみんなが動く。
- ドミノ倒しの最初のドミノを押すようなもの。
- 自己を磨くと子育ては喜びとなる。
⇒自分の一部を捨てる⇒自己が生きる。

17

父親の役割

- ゆるがず、逃げず、小さなことにこだわらず
- 子どもの不登校という問題⇒自信がないから逃げてしまう。
- 思春期の子どもにとっては、社会参加への稽古相手
- 簡単な方法
子どもや母親からの提案には無条件でイエスを言う事。
? と思ったら、確認すればいい。はじめから、反対はしない。

18

父と息子

- 父親に挑戦し、社会で戦うための技術を学ぶ。
(父親の在り方を基本にして、男のアイデンティティを確立する。)
- 適当に負けてやるのが大切。いつまでも子どもに負けない父親は子どもの成長を阻む。
- 現代は子どもとおしの付き合いが減ったので、男の子の父親は子どもが歩き始めるころから出番になる。⇒できていない時、付き合いの苦手な子になる。
父親と遊べなかった子どもが後から問題を抱えてやってくる。

19

父と娘

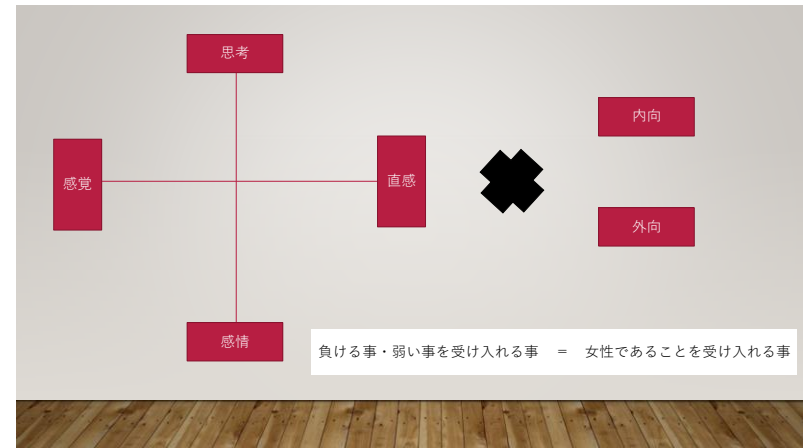
- 思春期は父親を毛嫌にする
- 自分を守ってくれる存在・危険から救助してくれる存在というイメージ
- 他の家族から娘を守れているかも重要!!
- 父親は老いを受け入れることも大切。
家の家長は、息子(婿)に譲る事。

20

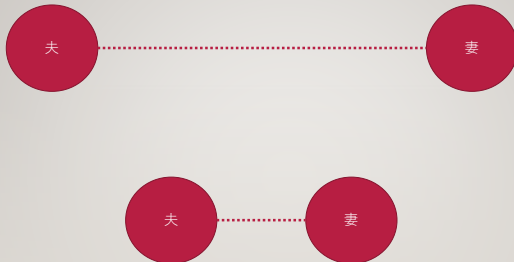
夫婦関係と子育て

- 夫婦はその違いを知る事でお互いを理解していく。
- 違いがあるから喧嘩も起きる
- 喧嘩をしない夫婦 = 違いを知ろうとしない夫婦
(悲惨な結末を起こすことがある)

21



22



23

虎穴にいらずんば虎児を得ず

- 虎穴に入ってビビると虎のえさになるだけ。
- 最後までやり遂げるには相手への信頼と、自分の不安の克服が必要。
(子どもに対しても同じですね。)

24